

# ごみの分別から始める美化意識向上の研究

1年4組 清水 心    1年4組 朝倉 とわ    1年4組 加納 愛華  
 1年4組 善福 彩奈    1年4組 福井 彩心  
 指導者 田中 善久

## 1 課題設定の理由

入学してから、文化祭、体育祭などの行事後に落し物がたくさんあり、何日も持ち主が取りに行かず、置き去りになっているのを目にすることが多かった。また、廊下のごみ箱がごみで溢れているのを見て、東高生の美化意識を高めたいと思い、この研究を行った。

## 2 実験・研究の方法

### (1) モニター調査

本校の教員や生徒を対象に廊下、階段にティッシュを落としておき、拾った人、拾わなかった人にそれぞれインタビューを行う（写真1）。



写真1 ごみを落とした廊下、階段の様子

### (2) ワークショップ

美化意識向上を目的としたクイズを作成し、本校の生徒 13 名を対象にワークショップを行う。事前と事後でアンケートをとり、その結果を比較する。

## 3 結果と考察

### (1) モニター調査の結果（図1）

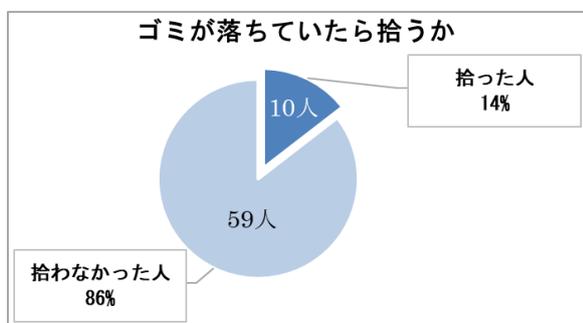


図1 ごみを拾った人、拾わなかった人の割合

表1 ごみを拾った人、拾わなかった人の意見

拾った人の意見	拾わなかった人の意見
ティッシュが拾ってと言った	見たけどいいかな
何も考えず	もういいや
拾おう	気分じゃなかった
ポリシーだから	近くにゴミ箱がなかった
運だと思った	急いでいた
あったから拾った	不自然だった
落ちていたから	虫だと思った
誰も拾ってなさそうだから	汚いと思った
	拾う気にならなかった
	怪しいと思った
	いつもなら拾う
	用事があったからいいかな
	意識が違うところへ行った
	疲れていた
	急いでいた
	それどころじゃなかった
	下を見ていなかった

図1のとおり拾った人の割合は14%と少なく、表1の拾わなかった人の意見には「見たけど拾わなかった」という意見が多かった。ごみを拾うことにメリットを感じるようになれば美化意識の向上につながるのではないかと考え、ワークショップを計画した。

### (2) ワークショップ（写真2、写真3）



写真2 ごみ分別クイズ



写真3 正しくごみを分別するワークショップ



(3) 事前・事後アンケートの結果（図2、表2）

【アンケートの質問事項】※それぞれ1～5の5段階で評価してもらった。

質問1 あなたはごみの分別についてどのくらい知っていますか。

質問2 あなたはごみの分別に関心がありますか。

質問3 自分のごみの分別ができていますか。

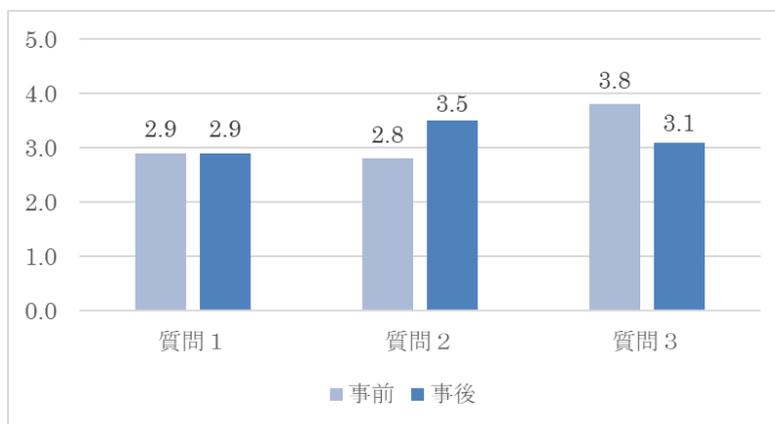


図2 ワークショップの事前・事後アンケートの結果の比較

図2の質問2のように、ワークショップ後はごみの分別について関心が高まっていた。一方、図2の質問3のように、「自分ではごみの分別ができています」と思っていたが、ワークショップを通して、「自分の分別の仕方は甘かった」と感じた人が多かったと考察する。

表2 ワークショップの事前・事後アンケートの結果の比較

	質問1		質問2		質問3	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
平均	2.9	2.9	2.8	3.5	3.8	3.1
分散	0.4	1.2	1.8	1.3	0.8	1.4
P値	1.00		0.11		0.14	

ただし、表2のとおり、t検定を行って見たら、どの質問においてもP値<0.05を満たすことがなく、有意な増減には至らなかった。そのことにより、今後、ワークショップの内容を充実させる必要があると考える。

## 5 まとめと今後の課題

2つの実験を通して、本校の生徒は美化意識が低いとわかったが、ワークショップなどを行い、ごみ分別や美化活動について啓発活動が続けていくことで美化意識を高めることができる。これからも、校内を美しくするために啓発活動を積極的に行っていきたい。

## 参考文献

・滝沢秀一/友紀 (2019) 『ゴミ清掃員の日常』